

不思議ふしぎ!?

京都に隠れた意外な秘密を紹介します

土地を奪われた神様

新型コロナウイルスの猛威が世界を席巻する中、私たちの暮らしが根底から脅かされていますが、一日も早い日常の回復を願って、本稿では敢えて何事もないかのように筆を進めたいと思います。

さて、五月は京都の祭月、地域を代表する神社で大きな祭礼が行われます。伏見稲荷大社の稲荷祭（還幸祭）、藤森神社では藤森祭

が挙行され盛大に賑わいますが、この二つの神社にはとても不思議な歴史があるのです。

皆さんはお稲荷さんの門前や周辺はどここの神社の氏子区域かご存じですか？ 実は藤森神社の氏子区域なのです。お稲荷さんの氏子区域はずっと西の京都駅や六孫王神社周辺なのです。

これには深い理由があります。いま伏見稲荷大社の本殿や大鳥居のある場所には藤尾社という現在の藤森神社がありました。それが稲荷山の山上におられた稲荷の神様が山麓に降りられることになり、藤尾社が邪魔になったのです。一説に弘法大師空海の時と言われている。

そのとき、稲荷の人々が藤尾社に「少しの間菓を置く場所を貸してほしい」と頼みに来ました。藤尾社はそのくらいならと承諾したところ、稲荷の人々はなんと菓を

歴史や文化、全てが源流へとたどり着く古都。京都を知ることには日本を理解すること。

京都好きを大好きに



一本一本結んで横に並べ、藤尾社の境内をぐるりと囲ってしまっただけです。藤尾社は話が違くと猛烈に抗議し、少しの間とはどのくらいだ？ と問い詰めると、空海は十年間だけお借りするという証文を提出したのです。それならと不承不承引き下がった藤尾社に対し、空海は証文の上にわざと墨を落し、「十」年を「千」年に変えてしまったといわれています。その結果、藤尾社は今に至るまで場所を奪われたままとりました。

現在、五月の藤森祭では藤森神社の三基の神輿が稲荷の境内に渡御し、一基は藤尾社の旧地に留め置かれ、残りの二基は稲荷社の神輿を受けますが、近年までその間藤森神社の人々がお稲荷さんの社に向かって「土地返しや」と囁き立てていました。大社の門前を氏子区域にしながら藤森神社は稲荷祭には今でも一切参加しません。

菓つなぎや落し墨など、明らかに後世の作り話と思えるこの逸話。超人的な行いや出来事を空海になぞらえる風潮が見られますが、もしかしたら今頃、泉下で「その手は食うかい」と高笑いされているかも知れませんね。

なおこの移転の時、今の藤森神社の場所にはすでに真幡木神社があり、さらに押し出されて現在の城南宮境内に移されました。

(同志社大学嘱託講師 堤勇二)



伏見稲荷境内・旧藤尾社前に渡御した藤森神社の神輿三基



藤森神社 大きな割拝殿は多くの神様合祀の証